

ナショナル・トラストの意義

環境保全や野生生物の保護を目的として土地を取得し、永続的に管理していく「ナショナル・トラスト運動」は、国内各地で取り組みが進められています。この運動の意義について、(公社)日本ナショナル・トラスト協会に取材しました(写真は同協会提供)。

希少生物を守る選択

ナショナル・トラスト 開発から守り、半永久ト運動は、産業革命がすすむ19世紀末の英国で始まりました。自然環境や歴史的建造物を乱り、寄付や遺贈を受け



日本ナショナル・トラスト協会が管理する森林の一角。写真は同協会提供。



絶滅の危機に瀕しているアマミノクロウサギ (撮影：菅田守)



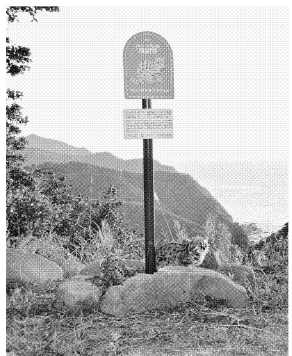
環境

山林を守ったのがナショナル・トラスト運動の最初の取り組みです。日本は国土の7割以上が森林を有する。この森林を保護し、自然の森や草原は、法制度などで保護に指定されている土地は、国土の5割にす

管理する運動です。現在までに、英国内の総面積25万5000ヘクタール以上が保全されています。運動は、英国と関係の深いオーストラリアや米国をはじめ、各国に広がっています。小笠原の大佛堂邸の呼びかけで、1964年に鎌倉風致保存会が特定し、宅地造成計画から取り除かれ、約9000ヘクタールが守られています。その全国ネットワークを担う組織として20年前に発足したのが、日本ナショナル・トラスト協会です。同協会は現在、全国に18カ所の土地を取得し、管理にあたっています。最近では、今年1月に奄美大島の西部に、100ヘクタールの森林を取得しました。島の面積の8割を森林が占めていますが、その94%が民有地で、開発の進展とともに希少生物

保全のために土地を取得し、管理

が絶滅してしまう恐れがある。判断したためです。奄美大島は、ウサギの中で最も原始的な形態を残しているアマミノクロウサギが生息しています。推定3000頭。他の地域では約500頭。9年に非常に増える宣言されています。また、奄美大島は鹿の町に指定されています。ところが、ハブ退治のために導入されたマングースに生食され、さらに道路や



長崎県・対馬のツシマヤマメコ保護区に掲示された看板と、その下で休息するヤマメコ (撮影：山村辰美)

最初に動き 機運を高める

同協会の若山義則総務部長は、「アマミノクロウサギのすむ森林は、将来にわたり自然のままに残すことが必要です。そのうえで、地元の環境にも貢献したい」と語ります。この土地の購入に充てる寄付金を募るキャンペーンを、6月末まで実施しているそう。今年2月には、同協会が主催し、国内各地のナショナル・トラスト

マシノウサギが生息しています。推定3000頭。他の地域では約500頭。9年に非常に増える宣言されています。また、奄美大島は鹿の町に指定されています。ところが、ハブ退治のために導入されたマングースに生食され、さらに道路や

機を深めている状況を紹介しました。北海道の斜里町で、かつての開拓跡地を守り、原生の森を取り戻す「しれとこ100平方メートル運動推進本部」の榎岡隆会長、斜里町長は、「私たちが町は農業や林業、観光など自然の恵みで生きています。自然環境の破壊は、生活の基盤を失うことを意味します。」「運動の重要性を語りました。長崎県の対馬で、絶滅が危ぶまれるツシマヤマメコの保護に取り組む「ツシマヤマメコ保護会」の村辰美会長は、10から100平方メートルの運動を推進する小動物の確保に挑戦しています。こうした取り組みが、着実に相互連帯を重ねつつ、少しずつ広がっています。日本ナショナル・トラスト協会の問い合わせは電話03-5707-8031。

國で森の保全に取り組む「100のふるさと基金」の狩野事務局長は、20年以上におよぶ活動を振り返り、「私たち市民団体にできることは、最初に動いて、多くの方を巻き込み、保全機運を高めること」と語り、行政や企業、地元自治会、自然保護団体と連